

芦北海岸県立自然公園を採る

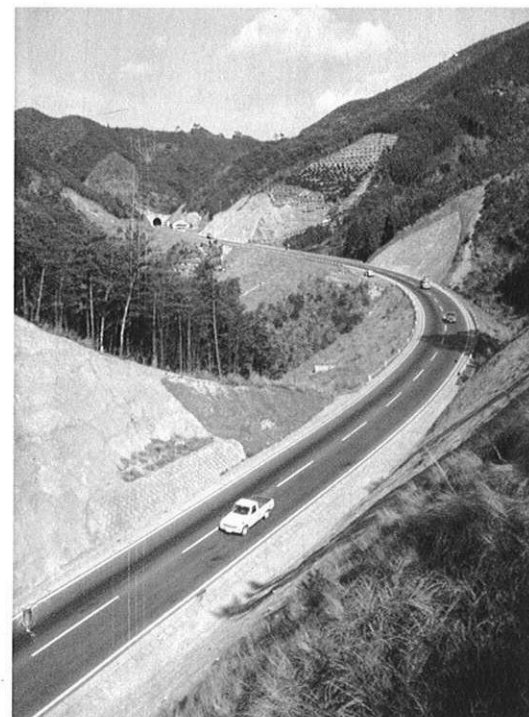
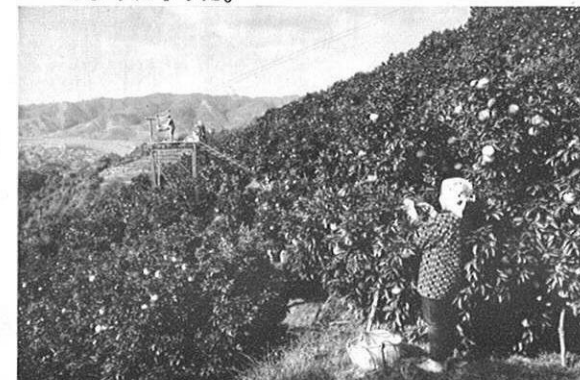
鹿児島本線八代から水俣にいたる不知火海にそった海岸線はいわゆるリヤス式海岸としてすぐれた明美な観光地、この周辺には温泉が点在し、不知火海をへだてて天草を望むことができる。三太郎新国道も完工し、八代水俣間が時間にして1時間半となり、快適な旅が楽しめるようになった。見どころとしては海上遊覧をかねた八代日奈久のカニ網、舟出浮。夏は海水浴場が観光客の足をひいている。



上・日奈久は温泉地で有名だが、シーズンの舟出浮は観光客を喜ばせている。



上・天草の海につながる水の美しい海水浴場がいたるところに。
下・この地方の山麓は甘夏みかんの里として脚光を浴びるようになった。



上・交通の難所として知られた佐敷太郎、赤松太郎、津奈木太郎の三太郎峠も新国道の貫通で面目を一新した。



上・県南の海の玄関口として水俣港は観光・貿易港として大きな役割を果している。

下・山と海に包まれた湯の児温泉はユニークな味で知られている。



△ここに人あり▽

街角の笛と旗と

★水俣市多々良町
広田 登さん

「おじちゃん、おはよう」
「やあ、おはよう、注意して渡るんだよ」
学校の児童会旗を先頭に、次々に集団登校してくるチビッコたちと、交通指導に当る広田登さん(四二)の間に、今朝も明るい声が交差する。

水俣市内の電信電話局の近く。国道三号線と水俣第二小学校の通学路の交差点、ここは第二小学校への通学路七カ所の横断道路の内、最も交通量の多い危険箇所。とりわけ通学と通勤時が重なる朝の七時半から八時までの三十分間には、一千台近くの車が通り、新入学生などは立ちすくむほど。

広田さんが、毎朝、会社出勤前のこの時間に、交差点で街頭指導を始めてから三年になる。それだけに、笛を合図に、ときばきと交通の流れをしていく広田さんの手振りには、木賊はだしのものがある。

「一粒の麦」が芽ばえて

広田さんは、昭和三十六年一月から、父兄に依頼されて、広田さんの住む地域

の子ども会である「多々良ひまわり会」の指導をしてきた。

室内ゲームや野外活動、通路の清掃、溝の手入れなどといった子供会の活動に、広田さんは、四十年の四月から交通安全教育をとり入れた。警察に依頼しての交通安全教育用の幻燈会や交通法規の指導など。その中で、広田さんは子どもたちに、集団登校を呼びかけた。「子どもたちと約束したんです。子どもたちを交通事故から守ろうという呼びかけはあっても、実際の行動は、まだまだ芽ばえていませんでしたからね。君たちが集団登校をやれば、ほかの子ども会も、ひいては学校全体にも、集団登校が広がるに違いない。もちろん、おじさんも街頭で交通指導に当る。どちらが長続きするかやってみよう。」

「約束はしたものの、やはり、はじめの内は街頭に立つのはテレクさかったですね。子どもたちの集団登校も、最初は仲々うまくいかなかったようです。」
反響があった。一週間後には、ほかの子ども会でも、ほつぽつと集団登校を始めるようになった。そして、この時にまかれた、ほんのささやかな一粒の種は、現在では学校全体の集団登校という大きな実りにまでなったのである。

去年の春からは、各交差点に交通安全協会の指導員をはじめ、婦人会やバス会社の人々も、街頭指導に立つようになった。

街頭にみる人間模様

広田さんは、朝の時間はもちろん、雨、風などで、見通しの悪い時は、退社後の四時すぎから六時まで、街頭に指導に出る。「大寒の頃が一番つらいですね。手足がしびれて感覚がなくなる時もありますよ。」

交通指導に立っていると、人間の縮図をみる思いもする。傘をさして自転車の片手運転をしている人に注意すると、両合羽を買う金がないと屁理屈をいう人。子どもばかり優先するな、オレが運転して通るたびに、必ずとめるがどうしてかと言句をつける人。はては、月に幾ら貰っているのかといやみをいう人までさまざま。

とはいっても、大部分の人たちは、広田さんが一日でも休むと、体の具合でも悪いのではないかと心配してくれる善意の人たちなのである。

「三年もたつと、車の運転手とも顔なじみになりましてね。手を上げて挨拶してくれる人もいますよ。ご覧なさい。単車や自転車も一列になって走っているでしょう。交通安全に協力しているんですよ。」うれいしいことは、一人の違反者も事

